

令和4年度 防府市高齢者生活支援協議会 会議録（案）

令和5年2月27日（月）14時00分～15時30分

防府市文化福祉会館3階4号大会議室

- 1 あいさつ 事務局 健康福祉部高齢福祉課主幹
- 2 自己紹介
- 3 会長選出

会長 防府市社会福祉協議会 入江裕司委員

副会長 防府市地域協働支援センター 松浦和子委員

4 議事

（1）役割・いきがい支援について（資料1参照）

事務局より説明

【会長】

生活支援体制整備事業と防府市の高齢者支援の取組、役割・いきがい支援事業の目的や事業内容について説明があったが、委員の皆さまからご意見、ご質問をいただきたい。

【A委員】

良い取組だと思う。ハローワークやシルバー人材センターと違い給与や雇用関係がない形だと思うが、作業中に事故があった場合の保険はどうなるのか？

【事務局】

モデル事業時は、事業の中でボランティア保険への加入手続きを行い、事故があった際はそちらの保険で対応することとした。今後、本格的に実施していくこととなった場合も同様の扱いとする予定。

（2）役割・いきがい支援事業モデル実施の成果について（資料2参照）

【事務局】

令和4年8月から12月までの5ヵ月間、市内の介護事業所と連携して、役割・いきがい支援事業のモデル事業を実施した。テスト的な取組なので、高齢者の体の状態に詳しい介護事業所、特にレクリエーションや家事支援等、役割の創出がイメージしやすく、送迎もできる通所事業所をメインの活動の場とした。

通所事業所を活動の中心としたため、役割・いきがい支援コーディネーターは防府市通所サービス連絡協議会にお願いした。本日は通所サービス連絡協議会の 2 人からモデル事業の成果報告をしてもらう。

防府市通所サービス連絡協議会 森会長、澤崎理事より説明

【会長】

防府市は介護保険の認定を受けている中でも状態が軽い方については、サービスを受け続けるのではなく、資料 1 の中にあった市広報で紹介されている短期集中サービスで元気になることを目指している。元気になった高齢者の中で、家の外で役割・いきがいを持って活動したい人と活躍の場をマッチングしていくということで、面白い取組だと思う。議事（1）（2）を通して、委員の皆さまから、ご意見、ご質問をいただきたい。

【B 委員】

資料 2 のテスト事業についてお聞きしたい。紹介してもらった 3 事例は、成功事例だと思うが、いずれも女性である。民生委員として活動する中で、地域での取組をいろいろ実施しているが、女性の参加が多く、男性はなかなか出てきてくれないと感じている。女性 8 割・男性 2 割くらいのイメージである。現役時代は前に出ていた男性でも、退職すると出なくなる人が多いと感じており、民生委員として心配している部分である。男性の支援もできればいいと思っているが、男性での取組事例はあるか？

【事務局】

男性は 1 事例マッチング直前の事例がある。コロナの関係でテスト期間中でのマッチングはできなかったが、近いうちに通所事業所で、囲碁の対局相手として活動を開始する予定である。

今年度は通所事業所を主な活動の場としたため、どうしても女性の活動が多くなったが、来年度以降いろいろな業種と連携することができれば、男性の活動も増えるのではないかと思っている。

【C 委員】

私の所属する団体は、ボランティアや NPO 団体を支援する立ち位置である。

以前、役割・いきがい支援事業とは別で、生活支援コーディネーターからこの地区のこのエリアで、高齢者がボランティアできることはないか、お問い合わせをいただいたことがあるが、その時は活動がなかった。市としては、おそらく高齢者の活動の場をいろいろ増やしていきたいのだと思うが、例えば、この地区のこのエリアで男性が参加できる活動が欲しいと教えてもらえると協力しやすくなる。

役割・いきがい支援事業については、今後いろいろな業種に活動の幅を広げていきたいということだが、中間的就労の切り口で考えると、障害福祉の就労支援 A 型・B 型や、社会福祉法人の社会貢献活動が推進されているが、この社会貢献活動からニーズとして出てくる活動場所もあるのではないかと思う。この協議会に参加している委員とは違う市役所内の課が担当されていると思うが、庁内連携はどのようにされているか教えていただきたい。

【事務局】

今年度は通所事業所を活動の場としたため、商工振興課以外との連携はしていない。本格的に実施できるとなれば、障害福祉課とも連携していきたいと思っている。既存のボランティア活動を細分化し、この活動だけやってもらうといった視点で活動の場が作れるのではないかと思うので、本格的に実施することとなれば防府市地域協働支援センターとも連携していきたい。

【D委員】

まずは何点か質問をさせていただきたい。

<質問 1>

資料にある「役コ」とは何のことか？

<事務局回答>

役割・いきがい支援コーディネーターを省略して記載したもの。

<質問 2>

令和 5 年 4 月から本格的に実施するのか？

<事務局回答>

予算の確保ができれば積極的に推進していきたいと思っている。

<質問 3>

役割・いきがい支援コーディネーターは市内に 4 つある地域包括支援センターにそれぞれ配置する予定か？

<事務局回答>

どこかの組織や団体に一元化してほしいと考えている。

<質問 4>

マッチング後、役割・いきがい支援コーディネーターは関与しない？

<事務局回答>

関与していない人もいるし、少し関与が必要な人もいる。アフターフォローの業務の必要性はあると感じている。

<質問 5>

事業設計で、活動者への定期的なモニタリングを必須にする等の計画はあるか？

<事務局回答>

本事業は介護保険のサービスではなく、自立した生活の中での役割の創出がテーマであるため、基本的には介入しない方向で困りごとが出てきた場合に介入する計画としている。したがって定期的なモニタリングは必須とは考えていない。

とてもいい事業だと思う。高齢者の中には、最初やる気でも、途中気が変わる場合や、居心地が悪くなるという場合も考えられるが、なかなか自分から辞めるとは言いにくい人もいると思うので配慮して欲しい。

私の所属する施設では、83歳で働いている人がいる。また、専門職を補助する人として介護助手が全国的に推進されている。私の所属する施設でも何年か前から専門職は専門職の仕事に専念するという考えで、清掃や洗濯などは介護助手にらせていくということで介護助手の制度を導入している。包括からフレイル状態の高齢者の受け入れの相談があり、受け入れた結果、すごく元気になり活躍してくれている事例もある。

施設側は、手伝って欲しいことは多くあるが、個人的な繋がりが高齢者を見つけたいと思っているのが実態であるため、市で、役割・いきがい支援事業として大枠を作ってもらい、利用させてもらえると助かる。他の事業所も同様だと思うので、一日でも早く実施していただきたい。

【E 委員】

ファミリーサポートセンターのスキームに似ていると感じた。この事業ではマッチングが一番重要であると思う。元気な高齢者であれば、活動場所まで自分でいく

ことが可能だと思うが、自分で行けない人で、富海に住んでいる人が、大道の事業所で活動するとなると現実的ではないので、マッチングについて、この辺りを考慮して事業を進めていく必要があると思う。

商工会議所として協力できることは、会報に役割・いきがい支援事業の内容を掲載し、こんな形で高齢者支援に関われるといったことを会員に知らせることなどが考えられる。

【A委員】

市としては、この事業を大きくしていきたいのだと思うが、マッチング事例や相談数が増えるほど、役割・いきがい支援コーディネーターや地域包括支援センターの職員、受け入れ事業所等の負担は大きくなっていくと思う。この取組を維持していくためにも、今後事業を進めていく上でマッチングシステムの導入も検討すると良いと思う。

【会長】

現状マッチングしている人については、ボランティアとしての活動なのか、賃金が発生する活動なのかを教えていただきたい。

【事務局】

原則ボランティアとしての活動である。活動を継続する中で、事業所側がこの人を雇用したいとなれば、事業所と個人とが雇用契約を締結することはあるかもしれない。ボランティア保険についても、無償であることが条件なので、双方の話し合いで賃金が発生する形になれば、役割・いきがい支援事業の対象から外れることになる。

(3) 今後の高齢者の社会参加について（資料3）

事務局から説明

【事務局】

次の2点について、委員の皆様にご意見をいただきたい。

1. 民間企業のそれぞれの業種で高齢者が活躍できそうなことがあるか。
2. 自治会長や民生委員等の地域活動で高齢者が活躍できそうなことがあるか。

【F委員】

委員として参加しているが、営業関係の責任者ではないので、確定的なことは言

えない。お店では多くの高齢者が働いているため、できることはあると思う。一つの例として、土曜日に開催している朝市で、魚の調理に詳しい高齢者の方にアドバイスをしてもらっている。また、移動販売の事業を展開しているが、移動販売車に高齢者に同乗してもらい、販売補助や話し相手として活躍してもらうことも可能性としてはあると思う。しかし、移動販売の事業はオーナー事業であるため、私共の一存で決定することはできない。

高齢者にやってもらえることはいくつかあると思うが、今時点では具体的な話は難しいので、社内で共有し、意見を聞いてみたいと思っている。

【G 委員】

役割・いきがい支援事業については、自治会といっても、それぞれ独自で活動しているので、私からこの活動をということをする今の段階で言うことは難しい。

【H 委員】

タクシー業界も超高齢化に入っている。ドライバーも利用者も高齢者ということが多い。利用者の7割は女性で、3割が男性である。

会議の中で話があった男性のマッチングが少ない理由について考えてみた。男性は働いていた人が多く、働くことは有償だという頭の人が多いと思う。また、タクシーの利用者で考えると、運転手に対して話しかけてくる女性は多いが、男性はほとんど話しかけてこない。女性には話好きな人が多く、男性には少ないという点も男性のマッチング件数が少ないことに影響しているのではないかと考える。

【C 委員】

ボランティアの団体と関わることが多い。ボランティアの活動は少人数で行われることが多く、最近の話だと、子ども食堂を立ち上げるために集まった数人から相談を受け、立ち上げの支援を行った。少人数で運営しているため、自分で来て活動をしてくださる高齢者であれば、実施してもらうことが可能な活動はたくさんあると思う。ただ、運営側は忙しくしているので、活動中あまりアドバイス等ができないと思う。そのあたりがクリアできればニーズはかなりあると思う。

【会長】

社会福祉協議会もボランティアは重要視しているが、ボランティアをする人が高齢者であることが多い。手話、要約筆記、音声のボランティア等参加していただきたいことは多いので、連携をとっていきたい。

【I 委員】

役割・いきがい支援コーディネーターとシルバー人材センターとの関係のところで確認したいことがある。元気な高齢者が役割・いきがい支援コーディネーターに相談に来た場合、ただシルバー人材センターを紹介するだけのイメージか。シルバー人材センターも仕事がマッチングしないケースもある。また、相談に来られる人にはお金はいらなくても地域貢献や健康のために活動したいという人もいる。登録自体も無料ではないので、シルバー人材センターに来て活動に繋がらないケースも想定される。紹介していただく際に何らかの連携を取っていただけると思う。

【事務局】

本人の話をしっかり聞いた上で、シルバー人材センターが向いていそうな人を紹介する予定。今後、どのように情報連携したらよいか等相談させて欲しい。

【J 委員】

役割・いきがい支援コーディネーターは企業での活躍の場を創出し、生活支援コーディネーターは地域での役割の場を創出する活動をしている。例えば、小学校の放課後支援教室での活動や学校の校舎内のお花を生ける活動などである。高齢者が歩いて行ける範囲に役割の場を創出すると考えると、たくさんの場所が必要になる。花壇の整備等小さな内容でいいので情報提供をして欲しい。

【K 委員】

生活支援コーディネーターの認知度が低いと感じている。高齢者支援を進めていくうえで、いろいろなことを周知していく必要があると思うので、商工会議所の会報等を使わせてもらいながら、情報発信をしていきたいと思う。

【L 委員】

社会福祉協議会のボランティアや他のボランティアなど知らない情報も多いため、横のつながりの重要性を改めて感じた。しっかり連携していきたいと思う。

【M 委員】

生活支援コーディネーターとして、専門職から高齢者の活動の場の相談を受けることが多いが、マッチングすることが難しい。今後もいろいろな方の力をお借りし、連携していきたいと思う。

(4) その他 (資料 3)

事務局から説明